

問 30. すべての人の人権が尊重され、男女がともにその個性と能力を発揮できる社会の実現をめざす男女共同参画社会を実現していくために、行政にご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

■現在の状況

- 男女共同参画の実現を願っているが、日本は先進国とはいえ、まだまだ男尊女卑の国。難しいと思う。だって日本のトップがそうだから。(女性：20～24歳)
- 政治の場でも様々な機関の場でも、男性が圧倒的の多く、根本的に（心の奥）女性の意見を本気で聞いているような気がしない。(女性：60～64歳)
- 政界への女性の進出が少ないと思います。(男性：30～34歳)
- 国政、地方行政の中においても、女性に対して差別的なやじが飛び交ったりしている状況をまずは改める必要があるのでは。(男性：60～64歳)
- 社会慣習はすぐに変えられないが、グローバルな要請があると認識、強制力のある仕組みが時間を前倒しする策と考えます。(男性：65～69歳)

■男女平等、男女協働とは

- 男性がとか女性がとかでなく、皆で協力して何かを行うことが男女共同だと思います。女性と男性が共に生活しやすい働きやすい環境を希望します。(女性：25～29歳)
- 私は仕事・子育てをしています。子どもとの関係、仕事との関係、色々と人それぞれ違うと思うので、「女性が」「女性だから」という現在の流れも疑問です。制度があるから周りを考えない女性とかも増えている気がします。保育所や子どもが病気になった時などの頼れる施設などはもっともっと共働きをしていくには必要だと思います。(女性：40～44歳)
- 社会・地域での活動や就職を希望する男女が、安心して活動・働ける社会でなければだめだと思う。介護や育児がその障害になるようでは男女共同参画にはならない。(女性)
- 先入観を同じように被害にあっているものは現状を打開する術も、することすら与えられない。男尊女卑を無くすために女尊男卑になることは間違いである。行政は積極的な行動によって方策を実行すべき。(男性：20～24歳)
- 性別で差別するのではなく、能力に基づいた評価をあらゆる場面で取り入れていく仕組みづくり。(男性：25～29歳)
- そもそも何をもって男女平等となるのか。全ての人の人権が尊重されるとはどのような状況なのか。人それぞれの立場で基準が変わるので難しいと思う。(男性：40～44歳)
- 多くの人の考え方があるので、難しいことだと思われる。情報伝達は平等であるが、それぞれの方の努力の度合いや環境もある。また何がよいかという価値観も多様化しているので。(男性：45～49歳)

■特性を活かせる社会づくり

シングルマザーでも子どもを育てられる、介護をしながらでも働けるのが理想です。男女平等というのは「同じことをする」ではなく、女性という性の特徴を理解して活かすことだと思います。女性に「男性と同じこと」はできません。そこをゴールにすると子どもを産めません。「女性の働き方」を受け入れられる世の中になれば幸いです。(女性：35～39歳)

男女共同参画といっても女性らしさや女性の持つよさをつぶさないでほしい。(女性：45～49歳)
男には男のできること(力仕事)があり、女には女のできること(出産)がある。これは差別ではない。それぞれの立場を尊重し、感謝することが大切で、それを教育することが必要だと思う。(男性：45～49歳)

■女性が働くことについての是非

- 昔からの男女の関係性(社会での)意識が根強いのと、経済的なことや女性が妊娠、出産をするという事実がある以上、ある程度のライン以上の活躍はやはり難しいと思う。すべてにおいて男女平等が望ましいかということについての疑問もある。不平等を感じ、それを苦痛に感じるものも多いと思うが、そう思っていない人の意識にも触れてほしい。でも必要と思う人も多くいると思うので、できることがあったら少しのぞいて見たいとは思う。(女性：30～34歳)
- 子どもを預ける所があれば働きたい女性はたくさんいます。子育てをしている人の中には母親が家で育児をしていることを否定的にとらえている人も印象です。社会から孤立しているとか…。働いていることが平等で素晴らしいという考えが拡がりすぎではないのかなと感じています。また社会の役割の中で男女平等を望んでいない人も多い現実もあり、押しつけにならないようにしてほしい。女性の役割を果たす(女性にしかできないこと)ことも平等であり、社会の一員であるということも言ってほしい。(女性：35～39歳)
- 昨今、女性の問題を取り上げることが文化人のような風潮ですが、出産や子育てにあまりにも優遇しすぎかも。そのようなことよりも生まれてきた子どもにきちんと教育できる女性を育てることの方が大切だと思います。(女性：60～64歳)
- 今、働き出す女性が多いのは働きたいからだと思っている男性が多いが、男性が終身雇用が保障され毎年昇給が確実なら、子育てと家事だけしていきたくて思っている女性が多い女性が育児と仕事に悩まされることが無い社会になってほしい。(男性：35～39歳)
- 男女の性差、特性をそれぞれ活かせる社会を実現してもらいたい。母親が在宅で介護・育児に従事することも立派な社会への参画・貢献であり、家から出て仕事や活動することをのみ価値あることという考え方はよろしくないと思います。(男性：45～49歳)

■男性の意識改革

- 古い習慣や古い言い伝えも大事だと思いますが、男女が平等になる社会をめざすには根本的な意識を変えていく必要があると思います(特に男性や年配者)。(女性：40～44歳)
- 女性の問題は男性の問題でもある。女性の問題は女性だけでは解決できない。男性も自分自身の問題と考えるきっかけとなるようなキャンペーンなど、意識改革の活動を進めてもらいたい。(女性：40～44歳)
- 特に中高年の男性の意識改革を行うことが抜本的に必要なと思う。(男性：50～54歳)
- 男性と女性の差別を無くすこと。女性でもキャリアアップできること。働く女性が増えること。男性の残業や休日出勤を少なくする、家事や育児に協力してくれれば女性も外で働くことができる。女性の給料を上げる。給料が少ないと働く意味が無い。(女性：25～29歳)
- 男女が共に助け合い認め合える意見交換できる場をつくったり、家庭内(家事、育児、介護等)のことも積極的に参加できる社会づくりをしてほしい。(女性：40～44歳)

- 男女平等の意識は持っているものの、どこかにまだ各男女の中にジェンダーの意識があるような気がする。もっともっと男性が育児に家事に自然と参画していけるような啓発活動や、会社に男性の育児参加を認めていただけるような会社の仕組みの転換に向けての啓発も必要かと思う。(男性：60～64歳)
- 大阪は東京等に比べ、会社などで男尊女卑の風習がまだ強く残っていると思う。セクハラが何となく許させる雰囲気もある。(これは女性も嫌という意思表示をする人が少ないのも問題であるし、できない現実もあると思う) 駄目と知りながら少しくらいという意識が大阪の文化の良い所でもあるが、これらの問題を解決できない原因でもあると思う。女性専用車に平気で乗っている男性、歩きタバコをする男性、職場で軽々しくボディタッチをする男性。東京や他の都市では考えられません。これらの意識を変えて女性に対しての配慮をするところから男女平等が始まるのではないのでしょうか。そのためには、大阪の女性も男性に対して嫌なことやおかしいことを表現すべきだと思います。そういう雰囲気を(町づくり)をしていただけたら良いのではないのでしょうか。(女性：30～34歳)
- 良くも悪くも「女性だから」どうこう言っている間は難しいと思います。その一点の理由だけでとやかくいう男性、或いは権利を嵩にきる女性は共にいると思うので。(男性：20～24歳)
- 社会よりも各家庭での意識改革が重要。個人の家庭での考え方が変わらない限りは、社会は大きく変わらないと考える。働きかける対象や方法について、これからは修正が必要では。(男性：50～54歳)
- 各家庭における分担にそれぞれが気づき感謝すること。幸せに気付く。頼れる人を頼りにできることは率先して参加し、地域に目を向ける。あいさつできる人を増やせば明るく生活しやすくなると思う(女性：35～39歳)

■子育て支援

- 社会をリタイアした高齢の方の働く女性へのサポートを充実してほしいです。祖母祖父には協力をすごくしてもらっていますので。(女性：20～24歳)
- 女性ばかりでなく男性もシングルファザー等になり、支援が必要な方もいると思うので、そのあたりのケアも必要と思う。また女性が働き続けるにあたり、育児支援(保育所・保育施設の拡充)は絶対必要だと思うので、更なる支援の検討をお願いします。(女性：25～29歳)
- 小さな子どもがいても働けるよう、保育料を安くしたり、託児施設を充実できるようサポートしてほしい。在宅ワークも増えるようサポートしてほしい。(女性：25～29歳)
- 子育て中の女性が社会に出るためには、保育園の存在は欠かせない。保育園が増えても働くスタッフがいないと保育園は機能しない。まずは働くスタッフの給料から見直すべきではないだろうか。介護スタッフも同様だと思う。(女性：30～34歳)
- 子どもの虐待、育児放棄が多いので、もっと積極的に行政機関が動いてほしいと思います。
(女性：40～44歳)
- これからは男女に限らず、働くことが人間として当たり前です。男女に限らず、働ける状況に行政が実施していただくことを望みます。性別に関係なく、人間らしく生きる生活です。(女性)
- 経験として、育児は父母共に負荷の高いものであり、この負荷を軽減させることができれば、もっと仕事や地域・社会活動に取り組むことができると考える。育児をサポートするような制度の拡充をお願いしたい。(男性：35～39歳)

- 子育て家庭への多大な支援が必要（男性：40～44歳）
- 子育て支援の観点より保育（学童）を含む施設の充実と、そこで働く人への評価、報酬を見直し、子育てしながら安心して働けるように改善、改革を願う。（男性：45～49歳）

■介護等を含むその他の支援施策

- 保育、介護施設の拡充。それに関わる人の給与の増加もしくは企業がそのような施設をつくり、国が補助手当を出すなど、企業、国が共同で男女が働きやすい環境を整えるべき。（女性：40～44歳）
- 私も含め、地域社会の活動にあまり参加しない人々が多いので、コミュニケーションや助け合いができていないと思います。介護や育児は本当はその家庭だけの問題にすると家族共倒れになる問題です。地域ぐるみで家庭問題を解決できる互助制度があれば、良いと思います。（女性：45～49歳）
- 子育て・介護がいつも主流ですが、病気の人、持病の人も取り入れてほしいです。医療費の負担が大きいけど働けない。家族に負担がかかり肩身が狭い。ドイツのように税金20%でも、ある程度生活保障と学校・医療費無料とかにしてほしい。（女性：45～49歳）
- 育児・介護の手厚いフォローが無ければ女性の社会参画は難しいと思います。クレオ大阪の取り組みが伝わってこない。（女性：60～64歳）

■給与UP等、経済的な安定等の支援

- 現在は女性に「子どもを産め、働け、介護・家事をしろ」と何となくそんなふうに使われているように思います。子どもの世話と介護が重なる人（初産で遅くなっているため）が増えていきそうで不安に思います。まずは雇用の安定、給料UPをしてもらって、結婚に踏み切れるように、若者に支援の手を差し伸べてほしいです。（女性：40～44歳）
- 家庭を安定させるため、職の無い男女に職を紹介し、就労させること（女性：65～69歳）
- 男が働き女は家事をする。それぐらい男が稼ぐ。（男性：20～24歳）
- ある程度給料がないと子育て、保育もきつい。精神的に昔の新婚補助的なものや保育所の場所等、働く人のための補助があればよい。（男性：40～44歳）

■中小企業の支援

- 少なくとも中小企業において管理者クラスの無意識な圧迫は消えることはないでしょう。女性に限らず、男性社員ですら「結果を出す」「仕事の幅を広げる」といった行為より、クオリティが低くても言われたことのみをこなす、長くいることが評価となります。行政が型を作ってみても、企業はその型に合うポーズをとるだけで、実態は何も変わらないと諦めています。それでもあと四半世紀働かなくてはならないので、どのような形で「働く」かを模索しております。（女性：40～44歳）
- 大企業が男女共同参画社会への実現のために取り組んでいる様子がテレビ等で紹介されたりしています。中小企業の方までなかなかその流れが届いていないのではと、企業間格差の是正に向けて頑張ってください。また行政に携わる皆様の人間的な資質の向上を期待するものです。（女性：65～69歳）

■再就職支援

- 正社員として職場復帰しやすくしてほしいです。育児が落ち着いてからの職種選びが限られているので収入面も厳しいです。勤務時間、土日出勤も融通が利かないことが多いので働けない。(女性：35～39歳)
- 30歳を過ぎて再就職または転職するのは現実的に厳しいように感じている。相談窓口があることをあまり知らないなので、地域のニュースなどで行政サービスを知らせてほしい。(女性：30～34歳)
- 男性は年を取って定年を迎えても再就職の機会が多いが、女性は40を過ぎると就職先がほとんどなくなってしまう。体力が元気な間はいつまでも働きたい人も多いと思うので、女性、高齢、使えない、という社会の考えを変えて行けたらと思う。(女性：40～44歳)

■教育について

- 行政よりも教育の場で男女の能力の差、社会に出てからの差別等を具体的に教育していかないとだめだと思う。行政に携わった仕事をしている方々に、差別意識が根強く残っているため、よくなっていかないとと思う。(女性：60～64歳)
- 男性の意識改革と女性自身の全体としてレベルアップをはかる気持ちを持つことができるように、キャリアと自信を身に付けることができれば、平等になっていくのかなど。でも男性を生むのも女性だから、小さいときの教育、しつけからやらないとDVもなくなる。(女性：65～69歳)
- 小学生くらいからの啓蒙活動充実が必要。すぐには実現できないので。(男性：35～39歳)
- 自分自身のことしか考えない若い方が増加している。もう少し年配の方を敬うような社会(縦社会)を形成するような教育を、小学校からしないといけないと思う。(男性：50～54歳)
- 女性政策と言われるような支援やPR、シンポジウムなどを形式的にいくらやっても成果はなかなかでない。男女共同参画社会をしっかりと形成するには、子どもの時から親や教育現場でしっかりと教え、育てていくことが最も重要だと思います。(男性：55～59歳)

■大阪市(行政)の仕事について

- 生の声をきちんと聞き、偏りがないようにする。(女性：20～24歳)
- 政策決定の場面で、女性の意見が反映できるような仕組み作りに取り組んでほしい。そもそも男性が働き過ぎで女性についてはいけない。社会的地位、管理職になる女性はどこかで無理をしているか歪みがでている。一方でリストラや派遣社員の増加もある。ワークシェアリングできる仕組みを整備する方策を広く検討すべきである。(女性：30～34歳)
- 子育て支援策、介護支援策、ともに充実のさせ方を工夫してほしい。いたれりつくせりの策は子育て放棄、介護逃れにつながる。主体はやはりその本人の実働にしておくこと。(女性：65～69歳)
- 男女共同参画社会の実現のために、安心して子育てのできる社会を先に考えるべきで、子どもの非行を少なくし次世代を担う立派な社会人を育てるよい家庭環境のもとで安心して成長する社会を望む。(女性：70～74歳)
- まず行政自体が縦横の連携をしっかりと、試行錯誤しながらも相互理解を深め、協力しあうことが男女共同参画社会実現のための素晴らしいモデルとなることだと思います。(男性：55～59歳)
- 行政の支援が拡充することを期待します。(男性：60～64歳)

■相談窓口、情報提供など

- 制度があるのを知らないことが多かったので、もっとテレビや雑誌などで紹介してほしい。一人でも多く知っているとネットワークになって良い社会になると思います。(女性：20～24歳)
- どういうことをしているのかを何も知らない人、何となくわかる人がほとんどだと思うので、もっともっとPRしたほうがよいと思う。正直、このアンケート用紙がくるまで何も内容を知らなかった。今もそうだが、もっと分かりやすく説明してほしい。(女性：30～34歳)
- 優良な会社(職場)を広く知らせていくような情報を出してほしい。(女性：40～44歳)
- 男女共同参画社会について、大阪市が活動をしていることはほとんど知らなかった。どんなことをしているのか、生活している上でもっと分かるようにしてほしい。(女性：35～39歳)
- ネットやフリーダイアルでいつでも相談・意見などが言える場を作ってほしい。平日の昼間では仕事をしていたり、子育てをしていたり自由な時間が少なく、経済的にゆとりがなければ相談もしにくいと思う。(女性：45～49歳)
- ネット社会であるが、私はパソコンもスマホも持っていない、インターネットもできないので情報が入ってこない。こういう老人も多くいると思う。そういう者に情報を提供してもらえる方法を考えてほしい。(女性：60～64歳)
- 行政が必要としている能力を持った女性が埋もれていると思います。発掘するため、情報公開があればいいのと思います。(女性：65～69歳)
- 男女共同参画事業(=人権を尊重する)、という言葉自体が浸透されていないのでは？ネーミングがもう少し馴染みやすいのがいいなあと思います。(女性：70～74歳)

■クレオ大阪について

- クレオ大阪で上記のことが行われているか知らない。もっと知っていただく方法として無料アプリを作るなどしてはどうか。一人で悩んでいる方は多いと思う。(女性：40～44歳)
- 「クレオ大阪」の名前は聞いたことはあったが、中身については全く知りませんでした。今よりもっと広報活動をして、告知した方がいいと思います。情報番組にとりあげてもらうなど、もっと一般の人の目にふれた方がいいと思います。(女性：45～49歳)
- クレオ大阪の活動により市役所のサービスが推進されている。(男性：75歳以上)

■高齢者の活躍の機会

- 60歳以上の男女の活躍の場(サークル、講演会、月2回ほど)(女性：55～59歳)
- 人生最後になり退職後に、体力も少し落ち、今までやっていた趣味も出来なくなり、一日を暮らすのに何か楽しくするものはないかと心配し、都会では男性は人の世話ではなく、人の交わりをするところがなく人生を終わるように思う。日向ぼっこができて交わって話をするところがほしいと思う。(女性：70～74歳)
- 高齢者がますます増加する。高齢者の地域活動のチャンスを男女共に企画してほしい。(男性：70～74歳)

■その他

- 男女間の暴力があっても気づけず、離婚になって初めて暴力と分かる人が多いです。私もこのアンケートを見て初めて知ったことも多いです。勉強になりました。この年になると、いまさら生活環境や家族の性格も変えられず、我慢しながら一生を終えることとなります。(女性：45～49歳)
- 生活しやすい社会にしてほしい。女性にもよい仕事場所があってほしい。(女性：50～54歳)
- 個人情報が出しないうえに責任感を持って仕事をしていきたいと思う。(女性：55～59歳)
- 世の中があまりにも早い速度で変わっていくので、私のような老人にはよくわからない。(女性：75歳以上)
- 20代独身男性であり真剣に考えたことがない(男性：25～29歳)
- 発揮する個性と能力のない人でも、そこそこ生きられる社会の実現を願っている(男性：45～49歳)

各質問 その他の自由回答意見【抜粋】

問8. 「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方に賛成する理由

- 子供が幼い間、母親はできるだけ家庭中心にしてほしい。
- 母がそばにいて親・自分・社会を信じる力(生きる力)を育てるため
- 自分自身が子育て中は子育て中心でいたいから
- ケースバイケースだと思う。出来ることなら子どもが高学年になるまで母親は家にいるのが良い
- 資質がなければ逆転してもよいが思想的に適していると思う。
- 身体がそういうつくりになっていると思うから。
- 男女それぞれ、向き不向きがあると思います。
- 男性が家事に向いていない
- 女性が働いて家庭を守れる体制が整っていない。
- 女性が両立するのは大変だから
- 男性の収入だけで一生豊かに暮らせる社会なら、女性は家事と子育てと趣味の没頭したいと思う。
- 男性の方が残業や休日出勤が多いため、家にいられる時間が少ない。
- 家事は誰かがしなければならぬので、自然と女性が行うことになりがち。
- 向き不向きもあるので、別に主夫でもよいと思う。一人は家庭を守る立場のひとが必要。短時間のパートもOKだと思う。
- 夫婦で助けあえばよい
- 自分がそうしたいと思うから

問9. 「男性は仕事、女性は家庭を中心にする」という考え方に反対する理由

- 男性が家事に向いている場合もあるから
- 個人にあった得意分野をいかすほうがよい
- 男女に関係無く、個人に適したものがある。
- 女性が働いて男性が家事もありと思う。
- 収入が多い方がメインになって働けばいいと思います。
- 男性が家事をしても女性が働いてもよいし家事分担すべき
- 個人の能力は性別で限定されるべきではない。例えば家事の得意な男性も存在するし、外に出て働く能力のある女性もいる。
- 形にとらわれるべきではない
- 家事を女性がしなければいけない理由はなく、男性でも家事や育児ができるから
- 男性には無い母性、優しさ、細かな気遣いなど、もっと活かしていくべきだと思う。犯罪の少ない社会につながると思う。
- 男女区別なく、家事に取り組むことは「人」として大切であり、性差別解消につながると思います。人として成長するため、何事の実験もお互いがしあい、お互いの立場・気持ちの理解をし、思いやりあい、助けあいながら大人の社会を作っていければ、子ども達も大切にでき、尊重しあえる社会や世界を希望する。

問15. 男女がともに「仕事と生活の調和」を図るためには、企業が取り組む必要があると思う取組み

- 会社経営者の意識向上、企業風土、会社全体の意識改革
- 仕事をしない人の給与分まで仕事をする人が働いているというような不平等を無くすことで負の感情をなくし仕事を負担する、してもらおうとしやすくする。
- 子どもの病気などで急に休まなくてはならない時など、会社全体が理解をしてもらえるようにすること
- トップダウンだけでなく、ボトムアップでの意見交換や社員全員の考えをもち合う場を設ける。
- 職場のいじめや理不尽なことを言う人を摘発
- 福利厚生を充実させ、使いやすい環境を作る。
- 企業内に保育所をつくる
- アルバイトから社員になる制度を作る
- 女性も仕事に責任感を持つ
- 仕事と生活の調和を図ることを希望する人はそのような仕事につけばよい。役所のような利益を出す必要の無い仕事の場合は調和がとれるかもしれないが、一般企業は無理。特にホワイトカラーは無理。
- 企業が取り組むには限界がある
- 独立起業を促す
- 派遣社員を道具のように使わない

問 16. 行政が取り組むと効果的であると思う取組み

- 取組みのすすんでいる企業への優遇税
- ワークライフバランスの進んでいる企業への優遇
- ワークライフバランスのためのマニュアル的なものを作成配布する
- 子どもを安心して預けることができる場所を増やしてほしい。託児所つきの職場など
- 保育所、保育士、保育時間の充実。
- 保育の充実と待機を無くすこと。0歳児の保育の充実を望みます。
- 行政の立ち入り調査と具体的な指導
- 有給休暇など、零細企業ももっと休みやすい環境ができるように指導してほしい。
- 配偶者控除などの税制の見直し
- 大企業がやったとしても中小の小さな会社では無理があるので、今の日本では何気ない日常生活をやっても無駄。しいて言うなら景気がアップすれば。
- 大企業にばかり目がいきすぎる。中小企業のことも考える。
- 規則緩和と給料アップ
- ワークシェアを推進する。1人で8時間労働ではなく、2人で4時間ずつ働く。
- 行政そのものが改革し実践する
- 行政側が管理者意識を変えて無駄な作業や人材をなくす取り組みを見せてほしい。
- 各官庁が横のつながりを持って市民の質問、相談に対して幅広く答えられるようにしてほしい。
- シニア世代の健康な方々を保育や介護分野に活用する。会社を退職した方々を経験者として起業の補助要員として活用する。

問 17. 「女性の活躍が推進されている」状態について

- 出産、子育てによるキャリアアップ機会損失が無い
- 保育中の部署異動の禁止の徹底
- 再就職の時、正社員だけでなく色々な雇用形態（嘱託・パート、短時間勤務等）の可能性の提示
- 男性並みの社会的責任を負うこと
- 女性も社会に甘えることなく信念を持って責任のある働きをしてほしい。
- 男女の別なく能力で判断、社会的責任を持つ
- 配偶者控除のような女性活躍を阻止する制度を廃止する
- 男性と同じ、男性の代わりを求められない。個人の適性にあった働き方ができる
- 様々な場面で女性の能力が開花し、自己実現している状態。社会的差別を受けていない状態。
- 家事は女性がするという固定観念を無くすこと
- 活躍を仕事をするのみに固定しない。子育ては大事なことなので、育児に向いている方（男女関係なく）がせめて子どもが小さいうちは家庭に軸足を置き、夫婦で安定した家庭づくりに努力することがよしとさせる社会になっている。
- そもそも男女は違うもの。それを全く同じに扱おうとすることは平等とは言えないと思っています。それぞれの特徴を重んじて伝統的慣習的な女性・男性の役割も重んじてとらえることも必要と思います。
- 家庭で家事・育児に従事する女性を評価する機運が高まること

問 18. 地域・社会活動の分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

- 安心して子どもを預ける施設が不十分
- 産休・育休等のキャリア的なブランクのケアが不十分だと思う。
- どうしても結婚、出産などで「どうせ辞める」と思われがち。将来を背負う子どもを祝福してほしいと思う。
- 家族以外の支援が充分でないこと
- 名声だけを望み、真の改革・改善を思考しない人がリーダーになろうとすること
- 威厳が求められ、世帯主は家庭のリーダーだから活動のリーダーも男性であるという構図があるように思う
- 女性〇〇と呼ばれたりする時点で、男性が主とされているのが分かります。それを止めてほしい
- 女性の活躍ができるように、男性が理解すること
- 互いに理解しあうこと
- 現時点では能力的に活躍できる人材がまだ少数（若い人にはいるが現役である）
- 人間性の向上が必要
- 未経験者でも育成して仕事ができるようにすること
- 男性女性の区別でなく、才能のある者がリーダーをつとめる
- 働きたくない女性が多い
- 女性同士の問題、女性が女性のリーダーをあまり受け入れない
- 女性の活躍を無理に進める必要はあるのかよくわからない

問 22. 今後、再就職したいあるいは起業したいと考えているが、現在実現していない理由

【再就職】 子どもが小さいのでもう少し大きくなってからと考えている

妊娠中であるため

産後まもないため

今の職場では自分の成長が見込めないため

年齢的に働ける職種が決まっており、自分の希望と合致しない。

【起業】 子育てが落ち着いていない

居住専用の賃貸に住んでいるため、自宅での起業が難しいため

現在、鬱病で何もできないため

問 23. 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後に再就職を希望する女性や、起業したいと考えている女性が再就職や起業をしやすくするため必要な取組み

- 子育て・介護の支援
- 育児や介護の休業中の世帯主への公的助成金と減税など福祉の充実
- 産休育休等の後補充は国、自治体、事業所が人、物、金をしっかり出す
- 再就職、起業するのは自由だが、急な休暇、早退をされたあと、それをフォローする他のスタッフへの優遇が必要。不満がたまる。
- 賃貸住宅でも起業できるシステム。不動産への優遇処置など
- 役所等へ相談する際に、偉そうな人が多く相談しづらい。まずは関係者の教育が必要。
- 主婦ではなく主夫についてもっと一般的になれば。
- 自立できる能力を身につける
- 行政に期待しすぎる。行政や他人に期待しているうちは何もできない。

問 24. すべての女性がいきいきと自分らしく活躍できるまちをめざすために効果的な大阪市としての取組み

- 税制・保険制度、年金制度の見直しと改革。
- 法的な強制
- セクハラ等の内部調査、パワハラ等の内部調査部の設置
- 子どもがいる人のことを考えた職場を増やすこと
- 出産や結婚で退職しなくてもよい社会や職場
- 社会の意識改革、介護・保育＝女性と考える時点で平等に思わない社会
- クラウドファンディング機能の充実、金銭以外の場所や土地の提供
- やる気のある人への正しい支援
- 学童保育の充実と市運営
- 既に女性は自分らしく能力に応じて活躍しているのでは。
- 子育てから復帰した女性だけが優遇される風潮を見直すべき。なぜ彼女たちだけが勤務時間を変えられるのかわからない。

問 29. 「クレオ大阪（大阪市立男女共同参画センター）」に期待する事業

- スポーツで男女共同参画
- 事業等の相談を気軽に行けるようになる企画
- ママ友のトラブルで話を聞いてもらえる場所
- 地域ごとにセンターを作る。研修や支援を受けたくても、家から遠いと休日がつぶれてしまう。小さい子どもがいると行くだけでも大変。電車代やパーキング代などのお金もかかる。
- クレオ大阪のホールなど、使用料をもっと安くしてほしい。若者が利用しやすくしてほしい。
- クレオに期待するものではなく廃止すべきだと思います。身近な区役所で上記のようなことをしっかりやってほしい。